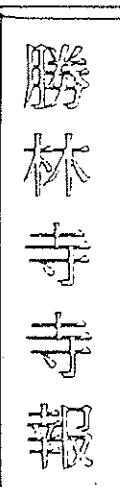


お釈迦様は生涯いい続けられました。  
「諦聴 タイチョウ 諦聴 タイチョウ」  
あきらかに聞け あきらかに聞け。  
いい加減にごまかさず、何が本当のものか  
のかを、あきらかに見抜きなさい。  
そして、本当のものをより所にして生きなさい。本当にないものを当て頼りに  
してはなりません。



十月の『法語カレンダー』に  
「本当のものがわからないと  
本当でないものを本当にする」  
ということばがでていました。

そんなに間違ったことはしていないつ  
もりなのに、不思議と不幸が続く。別に  
不摂生をしているわけでもないのに、近  
ごろどうもからだの調子がよくない。突  
然元気な人が急死した。理屈があわん。原因がわ  
からん。不思議なこつた。氣味が悪い。

そこにでてくるのが、日の良しあし。

「そうだ。友引の日に葬式やったから  
だ。ウーンそうに違いない」  
「ひよっとすると祖先の祟りではない  
が。そうとしか考えられん。ウンそれに  
間違いない。お祓いをしてもらわねば、  
供養をつとめねば」

本当のものがわからないと  
本当でないものを本当にする

お釈迦様は生涯いい続けられました。

口小谷 宮嶋 鳩 十一月十九日

清二様

十一月三日 葬儀  
栗尾 岡野 一二様



そして親鸞さまも、お釈迦さまのおし  
えのうえに正しくたって、迷信や占いな  
どに惑わされている当時の世相を  
「かなしきかなや道俗の／良時・吉日え  
らばしめ  
天神・地祇をあがめつつ／ト占・祭祠  
つとめとす」と嘆き  
その無慚無愧一なにが本当のものかの  
見分けのつかない私。「まことのこころ  
のない」私をこそ救おうとはたらく「弥  
陀廻向の御名」ナモアミダブツの眞実を  
より所にしてこそ、十方世界どんなところ  
でも、堂々と輝かしく生きてゆくこと  
ができるのだと教えてくださったのです。

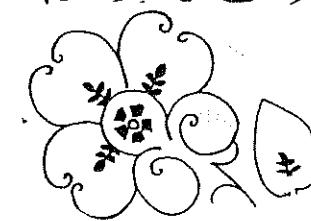
本当のものがわからないと  
本当でないものを本当にする

かりと生きてゆきなさい。」  
これがお釈迦さまのおしえのすべてでした。

## 宮嶋大樹くん 初参式



おめでとう



宮嶋大樹くん 初参式

宮嶋大樹くんが、大勢の家族親族とともに  
なわれて十一月十一日、初参式にお参り  
しました。今度父母の幸広さんまゆみさんが金沢  
から尼崎へ転勤移住されたのに伴い、姉  
の沙織ちゃんといっしょに兵庫県へ帰つ  
て来たわけです。県内に孫を迎えたおじ  
いちゃん（幸男氏）おばあちゃん（幸子  
仏婦会長）は、このところ大満悦。さう  
そく外の親族も同道でお参り下さいました。  
「一樹の蔭に宿るも多生の縁」というこ  
とばの大樹です。もういまからこのおさ  
ない木陰にたくさん縁を結んだものか  
と感銘しました。「ここを弘誓の仏地  
に樹てる」の樹です。如来さまのめぐみ  
をよりどころに大きな樹のようによるぎ  
ないのちをいきてほしいと願いました。

## 十一月のことよみ

一日 久畠・佐田報恩講。専福寺報  
恩講

二日 唐川報恩講。専福寺報恩講

三日 奥粟尾報恩講。岡野家納骨

四日 出合報恩講

五日 教務所会議

六日 野尻・矢根報恩講

七日 矢根報恩講。西家法事

八日 仏社仏婦合同役員会

九日 谷垣家忌明。永井かめの氏宅

法事。岩出和昭氏宅法事

暮坂報恩講

十日 太田・東里報恩講

十一日 奥小谷報恩講

十二日 小田報恩講

十三日 同じ

十四日 正法寺報恩講。数森隆夫氏宅

十五日 同じ

十六日 正法寺報恩講。教務所会議

十七日 百合・桐野・寺坂・日野辺・

鉢山報恩講

十八日 保谷・日殿報恩講。宮嶋達也

氏宅忌明

十九日 市場報恩講。教務所会議

二十日 正法寺報恩講。教務所会議

二十一日 百合・桐野・寺坂・日野辺・

鉢山報恩講

二十二日 保谷・日殿報恩講。宮嶋達也

氏宅忌明

二十三日 鉢山報恩講

二十四日 保谷・日殿報恩講。宮嶋達也

氏宅忌明

二十五日 保谷・日殿報恩講。宮嶋達也

氏宅忌明

二十六日 保谷・日殿報恩講。宮嶋達也

氏宅忌明

二十七日 保谷・日殿報恩講。宮嶋達也

氏宅忌明

二十八日 保谷・日殿報恩講。宮嶋達也

氏宅忌明

病床だより  
病院の許可をいただいておかげで寺の報  
恩講に会わせていただきました。ことの  
ほかもつたいないご縁でございました。

ここからお札を申し上げます。

二十六日に病院へ帰りました。今までにな  
かったほどの苦しさですが、なんでもおも  
かしい治療が始まりました。いままでにな  
く、正月には退院したいものと頑張つてお  
ります。ちょうど村村の報恩講の時期に留  
守をして迷惑をおかけします。お許し

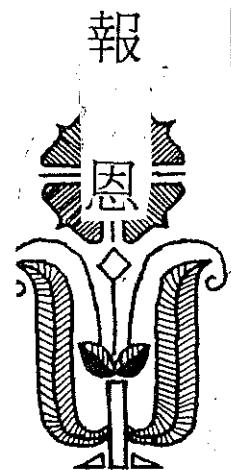
「淨土真宗ではよく、「信心正因、称名報恩」とか「他力の信心、報謝の念佛」などということを申します。

「肝心の親のご恩そっちのけで、ただ我身自分の孝行の程度を競い合う。そんなのホントウの親孝行と言えるだろ？　か。  
と親鸞様はおっしゃつて下さっているよう

あんなやつの親孝行なんて。あんな輩の道徳なんて……。肝心の親そっちのけで我身の孝行のほどを競争し、自分の道徳を自慢して人を中傷したりするということになってしまふのです。

ちはんの基本です。それだけにともすると、自分の孝行を誇り主張し、孝行・道徳の競争になつてしまふ場合がよくあります。兄貴より俺の孝行の方が上等だ。あいつのより私の道徳のほうがずっと

親孝行の競争をして、きょうたい互いに  
非難しあい傷つけあって、肝心の親から  
「そんな親孝行ならしていらん」と勘当  
になってしまったという話しがあります。

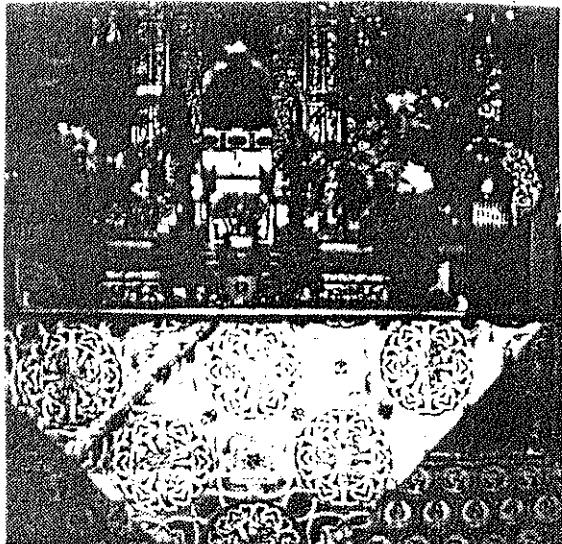


を、そつちのけにして、これだけ信じました、このように信じていますと、自分の信心の力量（自分）をひけらかしふりかざす。

「それよりもなによりも、今一度、無量寿・無量光として、いつでもどこでも私に働きどおしでいてくださる、親のいのちにたち帰させていただこうではありますせんか」

信心は報恩につきる。報恩、帰命そのものが真実の信心なのだよと、目を開いてくださったのが親鸞様の他力真宗なのです。

その報恩のいとなみ報恩講が、これから年末にかけて、寺でも私達の家庭でも勤まるのです。



# 兵庫教区 御同朋総結集大会 に参加して

十一月七日、神戸ポートアイランドホールにおいて、兵庫教区七千人の門信徒を集めて、「御同朋総結集大会」が開かれました。

出石組から一三〇名がバス三台に分乗して参加しました。勝林寺からは一七名が行きました。

昼食後、五〇分間の萬石ともやとそのメンバーのホーク・ソングは、さわやかな心安らぐひとときでした。

次に西池先生の問題提起でした。

組画変更後の差別被差別からの解放、  
同朋運動はどうなつてゐるか。聞かれて  
共に・動く門信徒会運動になつてゐるの  
かどうか。こことのところの反省と点検が  
必要だ」というものでした。また、スラ  
イド「青空の下で」を鑑賞し組画変更の  
歩みをかえりみました。

て、門信徒会運動・同朋運動を力強く進めていこう」というものでした。

次いで正面大オーラビジョンに貼り出されて、大谷光真ご門主のおことばがございました。

十一時三十分より幻想的な音楽と照明なかで『重誓偈』・念佛・贊歌などの樂礼拝が行われました。どの曲もどんたちも、こころにしみわたり響きわたる美しいものでした。

最後に大会宣言として、(1)差別の問題に取り組む (2)聞法と伝道に励む (3)研修、人材養成をはかるの三つを参加者を代表して仏社会長が読み上げ、午後三時三十分閉会し帰路につきました。

早朝からなかなか厳しいスケジュールでありましたが、それだけにみのりの多い意義深い一日ありました。

0 7 9 6 5 2 - 3 0 8 3

勝林寺 テレホン法話 079652-5800